



キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2016年12月 Vol. 21

Kinky Shot! -今月のキンシャサ-

コンゴと日本の友好の「ともしび」



コンゴ・日本大通り…キンシャサにはそんな名前の通りがあります。そう、何を隠そう日本が無償で改修したポワール通りが改名されたのです(「キンシャサの軌跡」Vol. 1~4参照)。

日本の高い施工技術が評価され、「コンゴ民No.1道路」「走りながら車内で書類にサインが出来る」とキンシャサっ子は絶賛。が、実は玉に瑕が1つだけ。当初、両側2車線で設計されていた道路が着工後に両側4車線に拡幅されたため、街路灯が撤去されたまま再設置されず、夜間は真っ暗なのです。財政難のためコンゴ民側による設置は断念し、紆余曲折を経て無償の一環として設置することが決定!

現在、基礎工事が進行中。2017年初から563器のソーラーパネル式の街路灯の設置が始まる予定です。

コンゴ・日本大通りが、人にも車にも環境にも優しい通りになる日は近い。。

キンシャサ初! Premierショッピングモール開店!

Kin Life! -キンシャサで生きる-

2年位前から近々堂々完成と言われ続け、最近やっとオープンしたショッピングモール。Le Premier(1番)というゴージャスな名前に違わず、中はキンシャサとは思えない雰囲気地下が駐車場、地上3階建てできれいなテラスレストランやボーリング場まである。



外観も立派!

こちらにきて初めて見たエスカレーター、そして店内にはZaraやH&Mなどヨーロッパのファッションを扱うお洒落なお店もあったりと、ここは本当にキンシャサなのかと頼をつわってみる。でも、Comme les Kinosis(コム・レ・キノワ。キンシャサ市民流とでもいうところか)とどこかで聞いたことのある名前のファッションショップがあったり、Kinsportsを見つけたりとやはりここはキンシャサだと悟る(キンシャサにはお店の頭文字にKinをつける店名が多い)。



中には素敵なフェイクがいろいろ♪

フワフワ歩きながら、「あ、きれいなお土産店がある。でも売っているものの多くはケニア製か…、コンゴ民も頑張れ」と心の中で呟いてみたいと、自由にウインドウショッピングできるのが何だか嬉しい。コンゴ民は治安情勢が悪く、スリや強盗、偽警官が横行しているので徒歩移動禁止、歩けるのは特定の公園や大型スーパーの中くらいしかない。スーパーで野菜や肉を横目で見ながら「散歩」するのもそろそろ厭きてきたところだったので、Le Premierは休日の絶好の気晴らしになりそうである。

Eat Kin! -キンシャサで食べる-

おしゃれなフレンチ, Petit Trianon



存在感のある看板がお出迎え



キンシャサの、フランス文化センター施設内にあるそのレストランは、かの有名なフランス王妃マリー・アントワネットがベルサイユ宮殿の中で最も愛した場所からその名をもらった。

———プチ・トリアン

室内の装飾に使われている派手なピンクにアフリカンスピリットを感じるも、ここがコンゴであることを忘れさせるほど豪華で手入れの行き届いたテーブルセッティングに目を奪われる。

コンゴ人のギャルソンが丁寧に接客をしてくれ席に案内されると、この店のフランス人女性オーナーが各テーブルを回ってお客様を気遣っている。彼女はもう25年もキンシャサに住んでいるのだそう。そういえば、コンゴ人のお客様から注文を取るとき、「さあ、パパ、ママは何になさいますか?」と聞いていた。「ムッシュ、マダム」ではなく「パパ、ママ」という敬称を使うのはコンゴでは当たり前。なるほど、コンゴ風おもてなしはお手の物、ってわけね。

肝心のお料理の方はというと、「アミューズ・フッシュ」から始まり、前菜・メイン・デザートへと、味覚はもちろんのこと視覚でも楽しませてくれるフレンチの神髄を裏切らない。メインやデザートに至っては、徒歩移動禁止で運動不足の在留邦人にとっては体重増加に拍車をかける勢いのボリュームでやってくる。

お腹も心も満たされるひと時を過ごし、キンシャサでも素敵なフレンチを堪能できることに感謝すら覚える、そんなレストランだ。

2007年のJICA事務所開設当初、初代所長の飯村は立ち上げの案件探しに奔走した。ほとんど地盤のないキンシャサで温かく迎えてくれたのは、JICA研修に参加して日本の心を学んだ帰国研修員たちであった。中でもINPP(国立職業訓練機構)は1980年代に供与された機材を騒乱を乗り越えて大事にメンテナンスして使っており、それが初代所長の心を打った。

それ以来、INPPは「コンゴ民の良心(?)」として、JICA関係者のオアシスと見られている。いはく、

- INPPは打てば響く!(専門家冥利に尽きますね。)
- INPPは時間を守る!(すべての基本です。守ってもらうのは難しいけど。)
- INPPは日当を要求しない!!(…うん。コンゴでは貴重です)
- INPPは書類をなくさない!!! (え?みんな、そんななくされてるの??)

この恵まれた(?)環境で、コンゴ民のJICA事業をリードすべく、またアフリカの職業訓練事業をリードすべく、JICA専門家チームとINPPは、共に奮闘してきた。2015年にはクワヤ総裁が国際協力感謝賞を受賞。今年にはINPPキンシャサ校のホールが「SADAKO OGATA多目的ホール」と命名されて、ラフラスむふふ♥な関係である。

と、ここまで書くと良いことづくめ。INPP技フ口専門家、事務所担当はみんなウハウハなのか? 楽ちんなのか? 次回回はINPPとともに働くがゆえの苦勞と醍醐味について、専門家の声をお届けしよう!



国際緊急援助隊感染症チーム、黄熱病対策で大活躍!

コン月のイベント



ワクチン接種の助言をする専門家



その後の大規模ワクチンキャンペーン

2016年6月末に保健大臣が黄熱病の流行宣言をしたことを受けて、発足以来初めて国際緊急援助隊感染症チームがキンシャサに派遣されました!

1週間の調査を経て、本隊が派遣されるという流れ。保健省の疾病対策局長に助言を行うアドバイザー、ラボで検査の支援を行うラボチーム、ワクチンキャンペーンの支援を行うチームに分かれ、約20名の専門家が黄熱病対策に尽力しました。ラボチームが日本から試薬を携行したことで、試薬切れで停止していた検体検査を再開することができました。検体検査することによって、黄熱病の流行が広がっているのか、あるいはコントロールできているのか、初めてわかるようになり、大きな貢献となりました。

黄熱病の患者が発生したKisenso保健区では、黄熱病の感染拡大を防ぐべく、いち早くワクチンキャンペーンが行われ、感染症対策チームのメンバーがその後の大規模なワクチンキャンペーンの実施を見据えて、助言を行いました。

その後、キンシャサ全域で実施されたワクチンキャンペーンでは世界で初めて、通常の5分の1の量のワクチン投与をするという画期的なものになりました。このワクチンの効果については少なくとも12ヶ月は有効といわれており、コンゴ民の国立生物医学研究所が効果の持続に関する研究調査を実施しており、結果が待たれます。

緊急援助地の活躍もあり、黄熱病の流行は収まりました!

愛すべき?コンゴ人

編集後記



所属:コンゴ民企業連合(FEC)など

氏名:パトリシア

「成功に必要なのは、市場を知ることよ!」とJICAの投資環境調査団に鋭く断言したのは、FECの幹部のパトリシア。人材育成企業CEO、INPPアドバイザー、ボードのメンバーとしての顔も持ち、家庭では3児の母!なんと一番上は大学生!!

キンシャサが誇るスーパーレディの見た目と実年齢のギャップは、コンゴ民七不思議のひとつとか!?

<☆今月のリンガラ語☆> 「イエベラ」
最近新しい使われ方をしているとか。

前号の答えは、「寒い」。冷房が効きすぎる室内で咳いてみると、温度を上げてもらえるかも!?
キンシャサはもうすぐ雨季本番がやってくる時期になりました。

大統領選挙の実施は延期となり、コンゴ民情勢は引き続き目が離せません。

次号のキンシャサの軌跡もお楽しみに!